



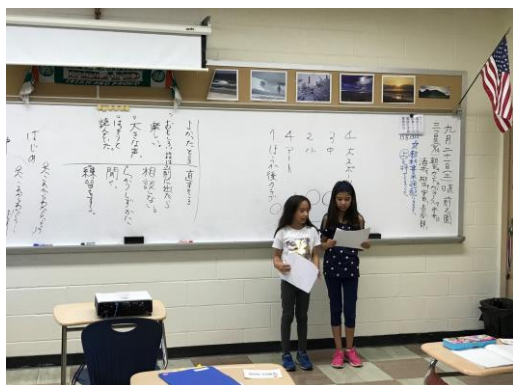
ニュージャーニー

補習授業校通信

土曜日は日本の教育を

初等部三年生の発表力

九月二十一日、初等部三年二組の教室をのぞいてみると子供達から「ちょうどよい時に校長先生が来た。」と口々に言われました。



何かと思いましたが、「つたえよう、楽しい学校生活」の単元の発表をするところでした。発表することは自分がやっているス

ポーツや手芸などについてです。写真のようにグループを作り、発表していきます。全て

ご紹介したい力作揃いでした。三年生になるとこれだけの文章を書くようになるのかと改めて子供達の成長を感じました。学級を代表してカツツアノス エリーさんの文章を紹介します。

これからアートについて話します。アートの活動はいろいろあります。私は工作が一番好きです。とくにかわいい小物、アクセサリやたん生日カードをつくったりするのが好きです。ビーズ、ねんど、毛糸、色紙、クレヨン、色えんぴつなどを使って作ります。後、自分で何かを作ったり、絵をかいたりするほかにびじゅつ館に行ったりすることも楽しいと思います。

中等部一年生、深まる国語の学習

中等部一年生の国語の授業を見に行くと、音読をしていました。中学一年生の国語となると漢字が多くなるだけでなく、文そのものを理解するのに、日本の習慣や歴史の知識が必要になってきます。

「僕の弟の名前は、ヒロユキといいます。僕が小学校四年生のときに生まれました。そ

のころは小学校といわずに、国民学校といっていました。」

これはその日の授業「大人になれなかった弟たちに……米倉斉加年」の冒頭部分です。夏休み後の授業の様子ほどのようなものかと思いましたが、子供達の集中度が高く、難しい音読によく取り組んでいました。

この作品は空襲がひどくなり、疎開しますが、疎開先で生まれて間もない弟のヒロユキが栄養失調で亡くなるというお話です。

国民学校、防空壕、疎開など普段の生活では触れることのないその時代ならではの単語が出てきます。保護者の方々はお子さんから尋ねられても、答えにくいのではないのでしょうか。中学生の国語は漢字や文の内容等、小学生からまた一つ高いハードルになったように思いました。

日本国内でも中学生になると声に出して読む機会は極端に少なくなります。ぜひ、家庭でも声に出して読み、親子で作品と一緒に鑑賞されてはと思いました。

第二十号
令和元年
九月二十八日
発行